

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-262	高等学校	家庭	家庭基礎	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	家基 708	家庭基礎 明日の生活を築く		

1. 編集の基本方針

教育基本法の目的の実現，学校教育法の目標の達成のために，家庭基礎の特質を効果的に生かした学習ができるよう，以下の趣旨のもとに教科書を編修しました。

◎基礎・基本となる知識や技術について，男女ともに家庭生活を営む担い手として，また生涯を見通して生活を創造する主体として，総合的・体験的かつ科学的に習得できるようにする。

◎男女共同参画型社会に対応していけるように，生活の諸面にわたって男女が共同責任で生活を営む意識が高められるようにする。

◎人は一生を通して発達するという生涯発達の視点に立ち，高齢者を含めて人間を中心に据え，生涯を通して自立をめざし育ち続けることが認識できるようにする。

◎人権を尊重し擁護する意識を高め，さまざまな人びとが対等にそれぞれの立場を受け入れ合い，さらには異文化とも共生していくための視点をわかりやすく表現する。

◎少子高齢社会に対応し，高齢者自身を自立した主体者としてとらえ，異世代間が相互に学びあい支援し合う生活のあり方や共生社会の方向を見通すことができるようにする。

◎地域の環境保全の視点，ひいては地球環境と共生していくための視点を重視し，自らの生活を見直して，持続可能なライフスタイルを築く力を育成できるようにする。

◎生活を科学と文化の両面から受けとめ，生活の主体者として，受け継ぎ，さらに発展させる視点を重視して記述する。

◎生活の営みに必要な生活資源や生活活動にかかわる事柄を関連づけて理解し，生活設計やキャリアプランニングに生かせるように，参考事例を随所に豊富に取り上げる。

教育基本法第2条の目標の達成のために、以下のことを編修の基本方針としました。

☆広く情報を収集し、自ら判断できる主体性の形成

- ・日常の家庭生活の中で、自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考えて主体的に判断・行動し、問題を解決する力が育つことをめざしました。
- ・学習の見通しや課題意識をもって学び、生活に応用発展できるように、全体構成や各章の導入、本文中の事例、実習例などを工夫しています。また、教科書の最終章に生活設計を位置づけ、全体の学習をまとめる形で、将来のライフスタイルに向けた意思決定ができる構成にしています。

☆生活に関する知識や技能の習得と勤労観の形成

- ・家庭生活に関する基礎的・基本的な知識や技能を系統的に習得・定着できるように図り、また体験的に学ぶことにより、職業観が養われることをめざしました。
- ・各章では小学校、中学校の学習の上に積み重ねて実践できる内容を配置し、また、生活事象のなぜを科学的に捉えるQ&Aを多数設定し、総合的・多面的に生活を理解できるように図っています。またそれぞれの学習内容に関連した職業に携わる人のメッセージ(『キャリア』)を掲載することで勤労観の形成を図っています。

☆共生の理解と他者とのかかわる力の育成

- ・地域や社会に目を向け、地域に住む様々な人びととのかかわる学習を多く設定し、社会の一員として他者と協力し、支えあうことができることをめざしました。
- ・直接的・間接的なかかわり方の事例を多く示し、共生社会をつくっていく力を育めるようにしています。

☆持続可能な社会の実現のための教育

- ・環境教育・防災教育を重視し、生徒が現状の課題を認識し、持続可能な社会形成に主体的にかかわっていけることをめざしました。
- ・教科書全体で、環境に配慮した生活のしかたや、将来にわたった安全・安心な暮らしを考える題材を掲載しています。

☆伝統や文化に関する教育の充実

- ・日常生活に受け継がれてきている衣食住などの伝統文化をとりあげています。その伝承の意義を理解し、また自分の生活が文化や歴史を創っていることを自覚し、次世代に継承すべき生活様式を創っていく態度を形成することをめざしました。
- ・日本ばかりでなく、世界の伝統文化やその歴史についても数多く取り上げています。

以上について、日常生活に関心を持ち、自分にできることについて実践・行動し、主体的に生活を営む能力を育てられることをめざしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> 導入課題の「考えてみよう」、「話し合ってみよう」等を設定し、なぜそう考えるのか、という問いかけから、事象を科学的にみる態度を養うことを目指しています。本文以外にも、参考やコラム、またイラスト・写真などで多彩な事例を示し、幅広い教養が身につくようにしています（知育 第1号）。 	全体
A3章 「乳幼児の発達のためやす」 「子どもにとって遊びとは」 他 B1章 「日本の食生活の今」「五代栄養素の働きと食品」 他 B2章 「衣服の選択と安全」 B3章 「健康で快適、安全な住まい」	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健やかな成長のために、必要な環境についての資料を充実させています。また、食事による体づくりの必要性に関する内容や、「被服の着用」、「快適な住まい」「安全な住まい」ほか、健康な生活に係る内容を充実させています（体育、食育 第1号）。 	p.37 p.73,78~89 p.112~115 p.138~143 他
A1章 「人の一生と発達課題」 他 教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> 自分は今、「おとな」なのか、まずは生徒が自分の生活を振り返って考えを表明する場面を設け、主体的な思考活動ができる場面を用意しています。その後、自立の色々なかたちを学習しながら、主体的に生きる「自律」についても合わせて学習できるようにしています。 また、教科書全体で自立をテーマに、生活を問い直し改善できるよう、考え体験する学習を充実させています。さらに「ホームプロジェクト」では、学習したことを生活に活かすための多様な課題例を示しています（自主、自律 第2号）。 	p.8~15 他 全体
B3章 「キャリア」(女性の木工) 他 C1章 「ライフステージで家計を見る」 リアルな課題で生活設計 他 教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> 職業観を養い、社会に目を向けられるよう、実際に働いている方からのメッセージを各章の中に入れていきます。 「消費者市民への道」、「生涯の生活設計」において具体的な将来設計と向き合い、これによって、職業と生活との関連を意識することができるようにした。（キャリア教育 第2号） 	p.15,47,55, 68 他 p.180・181 p.148~171 p.172~183 他全体
A1章 「自分らしさって何だろう」「男女共同参画社会」「どんな働き方をしたい？」 他 A2章 「これからの家族を考えよう」 A3章 「子育ては男性も女性も」 他	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも社会でも男女が協力して支える社会をめざす男女共同参画社会の重要性を示し、教科書全体にわたり、図・写真・イラストなどを中心に公平な配慮をしています。 人生設計と関連して、男女共同参画社会の理念を解説し、両性ともに子育てに参画することを示しました。（男女平等 第3号）。 	p.12 p.27 p.26 p.38 p.174 p.178・179 他
A4章 「人間の尊厳とケア」 「高齢社会の福祉」 A5章 共生社会における地域や家族 C3章 「持続可能な社会とライフスタイル」 他	<ul style="list-style-type: none"> 共生は個人個人の社会的自立に基づくものであることを示し、「共生社会における社会や地域」において、リスクに対する共生の必要性を示しました。（自他との協力 第3号）。 	p.54~57 p.58~63 p.175 他
C2章 「消費者の権利と責任」 C3章 「持続可能な社会とライフスタイル」 他	<ul style="list-style-type: none"> これからの社会を生きる主体として、権利には責任が伴うことを示し、また公正な社会に向けた取り組みを随所で取り上げ、具体的に考えられる課題を工夫しています。また各内容に関連した法律を示し、生活と法律を結びつけて考えられるよう配慮しました。（正義と責任 第3号） 	p.77 p.158・159, p.164~167 p.170・171 p.182・183 他

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-262	高等学校	家庭	家庭基礎	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	家基 708	家庭基礎 明日の生活を築く		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1) 学習への興味・関心を図るための配慮

* 学習に入る前のガイダンスページでは、中学校までの学習内容を積み重ねて、家庭科の学びの全体像がつかめるように構成しています。写真やイラストでそれを示すことにより、学習への興味・関心を喚起し、これからの自己の生活に引きつけて考えさせるように配慮しました。

* 各部の導入ページでは、学ぶ内容を学ぶ意図を概略的に理解できるよう、写真や図で構成しています。

* 各項目の導入では、高校生の目線に対応して、興味・関心を喚起する課題を設け、その項目の学習意図がわかるようにしました。

* 本文の内容はできるだけ生徒の関心や生活態度に即して記述するように心がけました。また、必要な箇所に「話し合ってみよう」「考えてみよう」などの課題や「参考」、「キャリア」(職業人のメッセージ)、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動につなげるための参考資料「高校生の取り組み」などの囲みを設定して、生活事象を科学的にとらえたり、現代社会のさまざまな課題を意識し、考えながら学習、実践できるように配慮しました。

2) 学習を効果的に進めるための配慮

* 「家庭科を学ぶにあたって」では、家庭科で学ぶことを生活に生かしていけるように、学ぶ目的や学び方について提示しました。

* 学習内容の理解を助けるために本文の側注を付し、補足説明を加えました。また、豆知識や参考の体裁をとり、本文と関連する用語について解説などを付しました。

* 本文中には、必要に応じて参照ページ (⇒p. ○○) や小中の振り返りを設けて、ほかのページとの学習の関連が図れるように配慮しました。

3) 男女が学ぶことへの配慮

*本文文章の記述や図・写真などは、男女平等、共同責任意識を高める視点で取り扱いました。

*実習題材は、男女双方が興味・関心をもって取り組める題材を選定しました。

4) 人間の生活と福祉のかかわりの意識化

*ライフステージごとに福祉がどのようにかかわっているかを具体的に示すことによって、人の生活と福祉についての意識化がはかれるようにしました。

*また地域の中で、高校生も福祉の主体として、積極的にコミュニティに関わっていけるように、地域で行われている取り組みの事例を多数掲載しました。

5) 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の取り上げ方

*学習した知識や技術を生かして、自ら課題を見出し、家庭や地域での生活を改善・充実しようとする積極的な態度が育成できるように、課題解決の道筋や実践例をヒントとして示しています。

*各学習内容でも、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動につなげるために参考となる「高校生の取り組み」を設け、時期を問わず実践しやすくしています。

6) 構成

*学習指導要領に沿った構成とし、その中で自立した生活者として幅広い視点から主体的に生活の充実・向上を図るために基礎となる力と、実践的態度を育成できるよう配列を工夫しました。

2. 対照表					
図書の構成・内容			学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
A 人の一生と家族・家庭及び福祉	1章 青年期の自立	①人の一生と青年期	A(2)	12～13	1
		②青年期を生きる		14～15	1
		③将来を見通しこれからを生きる		16～21	1
	2章 家族・家庭	①自分が拓く人生	A(2)	26～29	1
		②個人・家族と地域・社会		30～31	2
		③家族と法律		32～35	1
		④持続可能な家庭生活		36～41	1
	3章 子どもの生活と保育	①子どもの世界	A(3)	46～47	2
		②育つ子ども		48～55	2
		③子どもとかわる		56～57	2
		④子どもの育ちを支える		58～65	2
	4章 高齢者の関わりと福祉	①さまざまな高齢期	A(4)	70～73	1
		②高齢者の生活と福祉		74～79	2
	5章 共生社会を生きる		A(5)	82～85	2
	B 衣食住の生活と健康	1章 食生活と健康	①日本の食生活の今	B(1)	88～91
②五大栄養素の働きと食品			92～97		2
③おいしさの安全と科学			98～103		2
④さあ 料理を始めよう			104～113		10
⑤料理の組み合わせを考えよう			114～117		1
⑥多様な食文化			122～125		1
⑦持続可能な食生活			126～129		1
2章 衣生活と健康		①人間と被服	B(2)	134～139	1
		②被服の科学と管理		140～147	1
		③被服の選択と安全		148～151	1
		④被服を活用するために		152～153	10
		⑤持続可能な衣生活		154～155	1
3章 住生活と健康	①人間と住まい	B(3)	160～165	2	
	②健康で快適,安全な住まい		166～167	1	
	③持続可能な住生活		172～175	1	
c 持続可能な社会と消費生活	1章 生活を支える経済	①収入と支出	C(1)	180～183	1
		②貯蓄と負債		184～185	2
		③世界とつながる家計		186～189	2
	2章 消費行動と意思決定	①消費生活の現状	C(2)	190～191	1
		②消費生活の落とし穴		192～195	1
		③行動する消費者		196～197	1
	3章 持続可能なライフスタイルと環境	①消費生活の裏側で	C(3)	198～199	1
		②消費者として取り組む		200～201	1
		③持続可能な社会とライフスタイル		202～203	1
リアルな課題で生活設計			A(1)	206～213	1
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			D	214～219	(6)
計				70	70